7 「岐南町農業振興協議会による都市農業振興の取り組み」

岐南町　全地区　　令和４年度

【地域の概要】

○町域の95%以上が市街化区域で、各々の農地が宅地や工業用地の中に点在し、効率的な農作業が行われにくくなっている

○農地面積は約194haあるが、近年、宅地化が進み、農地面積が減少するとともに、農業者の高齢化と後継者不足が同時に進行しているため、耕作を行う農家戸数が減少している

○休耕状態や管理不全の農地が多く、有効な利用方法の検討・推進を行う必要がある

①取組開始前の状況や課題

優良農地の減少

○開発等で毎年、農地面積の１～２％にあたる２～４ha程度の農地が減少

○残された農地についても、高齢化等により、遊休農地が発生
（遊休農地面積　R4 0.3ha）

○遊休農地の農地所有者に、草刈等を指導することで除草はされるが、農地としての有効利用がされていないことが課題

岐南町農業振興協議会の開催

○令和２年度に策定した岐南町農業振興基本計画に基づき、都市農業を振興し、遊休農地の解消・発生防止に繋げるため、令和３年度から岐南町農業振興協議会を開催

○農地の有効利用の２つの方法として、①市民農園、②担い手と連携した新規作目生産（マコモタケ・ジャガイモ）、について協議し、これらに関心のある農地所有者をアンケート等で把握することとした。

②取組内容

第1回農業振興協議会（令和4年5月）

○農業者、担い手、農業委員、岐大教授、JA、町、農業会議など12名が参加し、水田所有者へ営農計画書に併せて配付したアンケート結果を協議

〈回答167/416戸〉　関心のあった者

①市民農園開設　１名　→　会員のJAから開設相談対応
②マコモタケ・ジャガイモ生産　１名　→　会員の担い手圃場見学会の紹介

振興協議会 現地見学会（令和4年6月、10月）

○農業者、担い手、農業委員、JA、町、農業会議など14名が参加

○担い手のマコモタケ圃場で栽培方法や以下のメリットを説明
- 田植機、コンバインなどの投資不要
- 定植の翌年からも伸長し収穫可
- 伸長しても水稲のように倒伏しない
- 湛水のまま生育可、日常管理は水稲より容易

現地見学会

③今後の展開と方向性

①市民農園希望者を掘起し・相談対応

○引き続き農業者に、開設費用や手続き方法を情報提供し、個別相談を実施する

②マコモタケ・ジャガイモ（インカのめざめ、きたかむい）の生産増加に注力

○現地見学会の結果や栽培のメリットをまとめ、引き続き農業者に情報提供する

○モニターを募集し、担い手、協議会がサポートしながら生産のチャレンジを応援する